

平成30年度良質な医師を育てる研修

国立病院機構では、毎年、多彩な内容で「良質な医師を育てる研修」を開催しています。豊富な経験を持つ先生方が講師を担当。実践的なスキルが身につく充実の内容です。今回は2018年11月に行われた「神経・筋（神経難病）診療中級研修」と、9月・11月の2回にわたって開催された「腹腔鏡セミナー」をご紹介します。

「神経・筋（神経難病）診療 中級研修」

神経・筋疾患は、国立病院機構が診療と研究の柱の1つとして、多数の病院ネットワークを活かして取り組んでいるジャンルです。「神経・筋（神経難病）研修」は、その魅力を神経疾患関連のプロを目指す若手医師に伝え、次世代の診療の担い手を育てることを目的にしたセミナーです。

今回は中級者を対象に、基礎から最新の研究まで幅広い内容を盛り込みました。診療の知識や技術のみならず、特定疾患制度の歴史を学び、慢性の神経疾患をもつ患者さんを地域でいかに支えていくのか。また、患者さんやご家族の視点で神経難病を考えるなどをテーマに、参加型のプログラムも組み込んだ国立病院機構ならではの意欲的な内容です。全国各地から神経内科領域に興味を抱く参加者が集まり、意見交換会では積極的な発言が飛び交い、好評のうちに終了しました。

平成30年度 良質な医師を育てる研修

「神経・筋（神経難病）診療中級研修」

対象：①神経内科後期研修医・専修医
(日本神経学会認定専門医取得前後の医師)

②卒後3年以上の者で神経内科領域に関心のある医師

上記のほか、卒後10年以内の神経内科勤務の若手医師

日時：平成30年11月30日(金)～12月1日(土)

会場：国立病院機構兵庫中央病院

参加者：12名(NHO病院11名、労災病院1名)

■ 研修内容

1日目

オリエンテーション

講義：神経難病医療の歴史と未来

講義：神経難病の病理像と画像の対比

講義：徒手筋力テストを考える

ハンズオンセミナー：神経伝導検査と針筋電図

講義：重症筋力無力症の新たな展開・病態・治療

実習：病棟見学

2日目

講義：神経難病患者の家族の立場から

講義：大脳皮質基底核変性症の話題

講義：福山型筋ジストロフィー

～フクチンの発見と根本的治療への挑戦～

講義：徒手筋力テストを考える

講義：眼球運動のみかた

ディベート：神経難病患者・家族への病状説明はどこまでするか？

参加者の声

〈参加者の声 1〉

身体診察や基本的な疾患概念のみならず、遺伝学的な話題や最新知見などが多く盛り込まれていてとても有意義でした。将来、神経内科医として働きたいという気持ちが高まりました。

〈参加者の声 2〉

講義内容が幅広く、広範囲に渡って体系的に学ぶことができ、大変勉強になりました。どの講義も分かりやすく、スムーズに理解できました。

〈参加者の声 3〉

2日目のディベートで、先生方の経験談や悩まれた症例などを聴けて良かったです。実臨床で悩んでいる問題や疑問の一部が解決しました。

〈参加者の声 4〉

神経難病のエキスパートの先生方と直接お話できる機会があったのは大変貴重な経験でした。戸田先生のお話からは原因遺伝子の同定から治療に向けて、道筋が見出せた気がしました。

〈参加者の声 5〉

日々の診療で疑問に感じていても、忙しさのあまり見送っていた問題への答えが見つかりました。疑問を感じたら、とことん答えを出していく姿勢が大切だと改めて感じました。

〈参加者の声 6〉

和やかな雰囲気の中、講義・ハンズオン・ディベートなどを考えたり、体を動かしたりする多彩な内容が盛り込まれていて、集中して受講できました。

〈参加者の声 7〉

普段指導していただく機会の乏しい分野であるハンズオンセミナーが良かったです。分かりやすく知識をより深めることができました。今後の診療に活かしていきたいと思います。

〈参加者の声 8〉

講義がメインでしたが、双方向的なやり取りが多く満足度の高い研修でした。意見交換会も非常に有意義で、楽しい時間が過ごせました。来年以降もぜひ続けていただきたいと思います。



Experience 研修情報紹介

「腹腔鏡セミナー」

身体への負担が少なく、回復が早いとされる腹腔鏡手術。一方で高度な技術と経験が要求され、適切な指導によるトレーニングが必要です。また、医師だけでなく、看護師など、コメディカルスタッフとの連携も求められます。

今回の腹腔鏡セミナーは、腹腔鏡に携わる医師（レジデント、研修医を含む）などに対して、専門知識および技術の習得と、腹腔鏡手術の安全性向上を目的したものです。また、医師だけでなく、基本的に同一施設から3人のチームで参加することを原則として実施しました。

ドライボックス等を用いた手技トレーニングは、所属病院ではなかなか経験できない実践的な内容です。経験豊富なベテラン医師の指導のもとで行う実技は、非常に勉強になったという声が多数寄せられ、満足度の高い研修になりました。なお、日本内視鏡外科学会公認の本セミナーは、技術認定医になるためのポイントが取得可能なプログラムになっています。

平成30年度 良質な医師を育てる研修

「腹腔鏡セミナー」

対 象：各施設3名のチームで参加（原則として医師2名、看護師・MEなどのコメディカル1名）

日 時：〈第1回〉平成30年9月7日（金）～8日（土）
〈第2回〉平成30年11月16日（金）～17日（土）

会 場：〈第1回〉ジョンソン・エンド・ジョンソン（株）東京サイエンスセンター
〈第2回〉コヴィディエンジャパン（株）メトロニックイノベーションセンター

参加者：〈第1回〉27名、〈第2回〉30名

■ 研修内容

1日目

講義①本セミナーの趣旨及び内視鏡外科手術の歴史について

講義②内視鏡手術の総論

講義③スーチャリング

ドライボックストレーニング（縫合・結紮モデル）

エネルギーデバイスの原理・安全使用

講義④実際の手技（各論）鼠径ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア

講義⑤実際の手技（各論）虫垂切除

ドライボックストレーニング

（鼠径ヘルニアモデル、吻合・ステープル）

2日目

・ラボ実習解説

・ラボ実習（Lap Cholecystectomy、LADG、LACなど）

・質疑応答

参加者の声

〈参加者の声 1〉

実際にヘルニアモデル等を使って切開や縫合・結紮の手技が練習でき、とても有意義でした。講師の先生方がつきっきりで丁寧に指導してくださったのもありがたかったです。

〈参加者の声 2〉

ヘルニアモデルの精密さに驚き、日本の技術力の高さを改めて感じました。質の高い講義とドライボックス等の実践的な手技練習の組み合わせが非常に勉強になりました。

〈参加者の声 3〉

ドライボックストレーニング等は今後役立つ密度の濃い研修でした。エキスパートの先生方の指導のもと、実際の生体を使って手技が練習できたのは貴重な体験でした。

〈参加者の声 4〉

見慣れた角度とは異なる視野で手技が見られ、大変興味深かったです。普段はカメラ持ちしかなかったLADGも、前に立って実際に執刀でき、良い練習になりました。ありがとうございます。

〈参加者の声 5〉

理解しやすい講義で、基本から楽しく学びました。実習では、1グループにつき、十分な時間と精緻なモデルを使わせてもらったので、膜や血管の走行が分かりやすく、大変勉強になりました。

〈参加者の声 6〉

実技の前に手技の説明があり、とても分かりやすい構成でした。スーチャリングやTAPP、結紮など、普段はできないことをたくさん体験でき、充実した2日間を過ごせて感謝しています。

〈参加者の声 7〉

鼠径ヘルニアの解剖が苦手でしたが、講義やモデルを使った手技トレーニングを受けたことで、少し自信ができました。看護師と一緒に参加したので、お互いの意識共有ができた点も良かったです。

〈参加者の声 8〉

器械の準備や手渡し方次第で手術のやりやすさが全然違うことを実感できました。今回の経験を踏まえ、もっとドクターの動きを見て工夫しながら介助できるようにしたいと思います。

